

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3871000414
法人名	有限会社 土香里
事業所名	グループホーム 土香里
所在地	愛媛県伊予市大平字片山甲225-1
自己評価作成日	平成24年8月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者がどんなことをしたいか、どこに出かけたいか、どんなことを心配しているかなど、担当の職員を中心に、少しでも利用者に喜んでもらえることを常に考え、話し合いながら、積極的に支援を行うようにしている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年8月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●近隣の小学校に劇団が来るような時には、事業所にも案内をくださり、小学生は、事前に車椅子の押し方を習い、利用者の車いすを会場まで押してくれた。調査当日は、隣の方が立ち寄っておられ、利用者・職員と世間話をされて、職員は、昨日もらった野菜で作った佃煮を渡しておられた。
●法人代表者は、職員の「人間性を高め、職員も笑心(えがお)になってほしい」と考えて、「勤務時間の短縮」や「職員のクラブ活動」等の仕組みを作られた。管理者は「日帰り旅行クラブ」に属して活動されており、活動を通じて職員間の信頼関係が深まり、チームワークがよくなることにつながっている。法人代表者も、職員とローテーションを組んで現場でケアに携わっておられ、職員と直接話す機会も多く、何でも話せる関係が作られており、離職の減少にもつながっている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 土香里

(ユニット名) 木の果

記入者(管理者)
氏名 井上 真喜子

評価完了日 平成24年 8月 1日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 毎月のカンファレンスで理念の復唱を行い、常に心に留められるようにしている。 ご近所とのお付き合いも大切にし、理念のとおりできていると思う。	
			(外部評価) 管理者は、理念を「職員全員で同じ方向性を持ち、利用者の支援につなげるものにしたい」という考えのもと、昨年、新たに職員全員で理念について話し合っ「笑心(えがお)の探求」と作成された。職員は、日々の中でそれぞれに「理念に沿った支援ができているか」と、確認したり、毎月のカンファレンス時には、理念を復唱されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 施設で開催するほたるまつりや、他のイベントの時など、ご近所の方にお願し、助けていただいている。	
			(外部評価) 事業所の隣人は元民生委員で、現在は老人会の世話役をされており、老人会や地区の行事等によく誘ってくださり、利用者は、地域の高齢者の方達と一緒に楽しんでいる。又、法人代表者は、地区の常会に参加して、事業所のイベントにも来てもらえるよう案内をされており、夏には近所の方と竹を切り出して、地域の方やご家族等と一緒にそうめん流しを楽しまれた。近隣の小学校に劇団が来るような時には、事業所にも案内をくださり、小学生は、事前に車椅子の押し方を習い、利用者の車いすを会場まで押してくれた。調査当日は、隣人の方が立ち寄っておられ、利用者・職員と世間話をされて、職員は、昨日もらった野菜で作った佃煮を渡しておられた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 近所の方との、お付き合いの中で、理解などをいただいている。また、推進会議などで認知症についての話をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議では、外部評価結果の公表や、分析結果について話し合う機会を設けており、取り組みと、取り組み状況について話し合っている。</p> <p>(外部評価) ご家族、地域の方、組長・区長、市の関係者、他グループホーム職員、評価機関等も参加して、地区の公民館を借り、夜間に会議を開催されている。又、テーマによっては、消防署の方や、医療メーカー、マッサージ師等にも参加いただいている。お弁当を食べながら会議をすすめておられ、パワーポイントを使って、より具体的に事業所の取り組みや行事時の利用者の様子を報告されている。ご家族から「行事時には準備から手伝いたい」と申し出があり、手伝いをお願いされている。近隣の方から「食事のいいにおいがする」という声があり、会議を活かして「ホームの食事の試食会をしたい」と考えておられた。</p>	<p>事業所が所在する地域は、高齢者が多い地域でもあり、今後さらに会議を通じて、事業所の特性や専門性を活かし、地域の方々に必要な情報や役立つ情報を分かりやすく発信していかれてはどうだろうか。又、利用者や地域の高齢者の方々が、地域の中で暮らし続けられるような環境整備に向けても、会議を活かして何かできることはないだろうか。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議に参加していただき、取り組みや問題点について一緒に話し合っている。</p> <p>(外部評価) 事業所主催の勉強会や運営推進会議に市の担当者も参加されている。又、市の認知症サポーター講座等にも協力されている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 極力、拘束を避けるような取り組みを話し合い、努力、実行している。</p> <p>(外部評価) 月に1回、身体拘束、言葉の拘束等について勉強会を行っておられる。「帰りたい」という気持ちになる方がおられ、夜間、玄関まで出て「暗くなった。今日はいけんね」と言われ、職員は「本当、暗いから今日はいけんね」と、ご本人と一緒に納得行くまで外をみながら見守っておられる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<p>(自己評価)</p> <p>施設内で勉強会を行った。また、職員のストレスが溜まらないようにコミュニケーションをこまめにとることを心がけている。</p>	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>成年後見制度について、施設内勉強会で、職員が学ぶ機会をもった。今後も勉強会などを利用して、もっと理解できるよう取り組むようにしていきたい。</p>	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<p>(自己評価)</p> <p>契約時には、重要事項説明書及び契約書の内容を説明し、疑問点があれば、説明をしている。また、その後も疑問点が見つければ、その都度、説明をしている。</p>	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<p>(自己評価)</p> <p>運営推進会議において、ご家族の意見を聞かせていただいている。また、面会時などに気付き、要望があれば、その時に話し合うようにしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ご家族の来訪時には、職員は笑顔で迎えておられ、訪問しやすい雰囲気を作っておられる。前回の外部評価実施後、利用者の受診時には、職員もご家族とともに同行して、診察の待ち時間等を利用してご家族とお話する機会を作っておられる。職員は「楽しい時間」となるよう取り組まれており、ご家族との関係作りはもちろん、利用者の昔話や若い時の様子等が聞ける機会にもなっている。いつも「充分です」というご家族とも、利用者の暮らしについて要望をうかがえた。イベントには、交流のあるご本人の兄弟等も誘っておられ、利用者や事業所への理解にもつながっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 代表者も勤務に入っているため、職員からの意見は日常的に聞き、その都度、話し合っている。 実行可能な意見は、すぐに実行している。	
			(外部評価) 法人代表者は、職員の「人間性を高め、職員も笑心(えがお)になってほしい」と考えて、「勤務時間の短縮」や「職員のクラブ活動」等の仕組みを作られた。管理者は「日帰り旅行クラブ」に属して活動されており、活動を通じて職員間の信頼関係が深まりチームワークがよくなることにつながっている。法人代表者も、職員とローテーションを組んで現場でケアに携わっておられ、職員と直接話す機会も多く、何でも話せる関係が作られており離職の減少にもつながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 基本的には、職員の給与には差をつけていない。職員の休日の希望はすべて受け入れている。向上心がすべての職員に備わっているかはわからない。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 施設内勉強会の年間計画を立てて、実行している。また、外部研修への参加も積極的に行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 管理者交流会や他のグループホームの運営推進会議に出席したりしている。相互研修にも参加し、お互いの施設研修を行っている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前から、できる範囲内でグループホームへ足を運んでいただき、不安なことなどを理解して、そばに居てあげられるよう心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前から、出来る限りグループホームに立ち寄っていただき、職員とのコミュニケーションを大切にしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族から、要望等の聞き取りはしているが、他のサービス利用も含めた対応には至っていない。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人のできることをみつけ、家事などを一緒に行っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 病院受診の同行や外出、外泊など家族とのかかわりを持つようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地域の行事に参加したり、友人が面会に来たりしている。	
			(外部評価) 馴染みの喫茶店では、連絡しておくお店の方が出迎えてくださり、利用者の中へ案内して下さる。利用者はコーヒーとケーキを食べながら楽しんでいる。よく利用する別の喫茶店では、入口前のテラスにテーブルや椅子を置いてくださるようになり、さらに利用しやすくなったようだ。近所に住んでいる友人が利用者を訪ねて来てくれたり、手紙のやり取りをしている利用者の方は、相手からの返事の手紙を枕元において大事にされていた。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) みんなでレクリエーションを行ったり、利用者同士、体調不良の方がいると、お互いに気遣う関係ができています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 実際に、過去に入居されていた方のご家族が立ち寄ってくれることもある。また、退居後も相談の対応も出来ている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の希望があれば、出来る限り、希望に添えるよう援助している。 (外部評価) 職員は、日々の「介護日誌」に利用者の言葉、表情を記録し、勤務の前には必ず目を通しておられる。利用者全員の記録は、手に取りやすく、見やすいように1ヶ月分を一冊のファイルに綴じておられる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前に、本人、家族から聞き取りを行い、把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ひとりひとりの生活のリズムに合わせた生活ができるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>毎月のカンファレンスで、話し合いを行っている。家族とも、面会時やケアプランの見直し時期などにおいて、話す機会を多く持つようにし、要望等、聞き取りを行い、ケアプランに取り入れるようにしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>アセスメントシートは、センター方式をアレンジして使用されており、事業所の記録書式を見直して、新たにされている。介護日誌に記録されている「利用者の表情、言葉、職員が気になること、家族の希望」等をもとに、サービス担当者会議で話し合う要点をまとめて、介護計画につなげるようになっている。3ヶ月ごとに計画を見直したり、利用者の状態等に变化がある時には、随時見直すようになっている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>日々の記録をし、変化があればわかるように、情報を共有するようにしている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>代表者、職員ともに何か出来ることはないか、普段から話し合っている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>まだまだ地域資源を把握しきれていないが、活用している地域資源もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価)	
			受診の時には、家族の同行をお願いし、関係を築くようにしている。	
			(外部評価)	
			利用者が重度化して、往診が必要になった場合は、往診や24時間対応が可能な医師をご家族やご本人に紹介し、相談して変更をされている。利用者の受診時には、ご家族とともに職員も同行されており、調査訪問時、利用者の受診から戻ってきたご家族が、他の職員にも病院での様子を伝えておられた。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価)	
			受診結果は、情報が共有できるよう受診記録を残すようにしている。看護職員は常に介護職員と情報交換を行い、連携を図っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価)	
			代表者、介護支援専門員によって、病院の地域連携室との関係づくりを行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価)	
			運営推進会議で看取りについて、事例を交えての話し合いを行った。また、ご家族に受診の同行をお願いしご本人の様子を医師から説明していただき今後の支援について話し合う機会を設けている。	
			(外部評価)	
			これまで事業所では、10名の利用者の方の看取りを支援された。入居時と体調に変化があった時、ご本人、ご家族に終末期のあり方について、希望をうかがっておられる。「終末期を自宅で過ごしたい」と希望があった際には、ご家族と一緒に往診が可能な医師を探し、ご本人が自宅に戻られても、職員は顔を見に訪ねて行かれている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時の連絡体制を職員で徹底し、不明な点などは看護職に指示を仰ぐようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練の際に、近所の方にも参加していただき、避難が困難な方が多くいることを伝え、協力が必要な時には、連絡できる体制を築いている。	
			(外部評価) 年2回、消防署の協力を得て避難訓練を実施されている。今年度、夜間時の火災を想定した訓練を行った際には、地域の消防団、近所の方にも参加いただき、消火器の使い方を習ったり、地域の方には、利用者が玄関に避難した後の見守りを実際に行っていただいた。又、職員が、利用者役になって避難することも体験され、利用者の立場からの意見も出しながら、避難方法について検討を重ねておられる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個人の生活ペースにより、居室でも落ち着いてすごせるよう、環境を整えている。	
			(外部評価) 前回の外部評価を受け、利用者の呼び方について、ご本人やご家族に意向をうかがってみられた。事業所では、ご家族・本人が呼ばれたい呼び方、馴染みの呼び方で呼ぶこととされ、「○○ちゃん」と呼んでいる方もある。管理者は、「言われた方はどう感じているのか」「職員の言葉が強制する声かけになっていないか」考えてほしいと話されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 何気ない会話から、希望を聞き取り、家族とのかかわりや外出などの支援ができるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) イベントや本人の希望によって、個別で外出をしたりしている。入浴なども、出来る限り、その日の希望を聞くようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 衣類などは、個別の外出で、本人が選んだ服を購入し、気に入った衣類ですごせるよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 下ごしらえなど積極的に参加を促している。	
			(外部評価) 平日の昼食は、栄養士資格を有する職員が1週間ずつユニットを替えて食事を作っておられる。調査訪問日の昼食時、利用者は、サラダの盛り付けをされたり、食後には、お盆に食器を乗せて台所まで運んでおられた。朝・夕食は主に職員が作り、利用者は野菜を切ったり味見をされている。もやしの根とりが得意な利用者が多いこともあって、もやしを使った料理をよく採り入れておられる。海にわかめを取りに行かれて、うどんに入れて食べたり、天草からところてんを作ったり、川でカニを取って食べる等して楽しまれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士がバランスよく献立している。個人に応じて、食事内容、形態、水分摂取などに注意して提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 声かけや介助など、状態に応じて、対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	<p>個別の排泄パターンにより支援を行っている。夜間は、コールなどを利用し、極力、トイレにて排泄できるようにしている。</p> <p>病院から退院した際には、紙おむつを使用している利用者もあるが、職員は、利用者が生活意欲を高められるよう「～してみる？」等と声をかけ、ご自分で行えるよう働きかけることに取り組まれた。そのような取り組みが、トイレでの排泄につながった事例がある。</p>	
			(外部評価)		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	<p>極力、薬を使用せず排便できるよう、個々に応じ、牛乳を飲んでもらうなど、対応している。</p>	
			(外部評価)		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	<p>夜間や早朝の時間帯は厳しいが、本人が希望される入浴の支援を行っている。</p> <p>毎日入浴することを希望する方や午後1番に入浴することを希望する利用者も支援されている。入浴を嫌がる方には、時間を置いたり、別の職員が勧めたりされている。入浴剤を使用したり、利用者によってはラジオを聞きながら入る方もあり、それぞれがゆっくり入浴できるよう支援されている。</p>	
			(外部評価)		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	<p>日中も休みたい時は、いつでも休んでいただけるようにしている。夜間は、二時間ごとの巡回にて、異常はないか、注意している。</p>	
			(外部評価)		

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋はいつでも見ることが出来るようにしているが全員は理解できていない。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者同士が、職員が介入しなくても、塗り絵などを通し、話しながら、和気あいあいとしている姿が見られる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出日は決めてあるが、それ以外の日でも本人の希望があれば、担当を中心にいつでもどこでも出かけられるように支援している。近所の散歩なども取り入れている。	
			(外部評価) ユニットごとに、週1日外出日を決め支援されており、利用者全員で動物園、道の駅、双海シーサイド等に出かけておられる。「買い物に行きたい」「生家や寺に行きたい」等、個々の希望があれば、個別にも支援されており、利用者は「行けて良かった。楽しかった」と喜ばれるようだ。職員は「少しでもお元氣なうちに利用者と一緒に旅行に出かけたい」「利用者・ご家族と忘年会に行きたい」と話されていた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) まとまったお金は事務所で管理しているが、自己管理できる利用者は本人がお金を所持し買い物等好きなきに使えるように支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 頻度が多い場合は、家族とも相談しながら、本人の希望により、電話をかけさせていただいている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) リビング、廊下では季節、イベントごとにその時にあった装いができている。トイレ内もカレンダーや絵を飾り、自宅のような生活感がある空間になっており、暑さ対策に扇風機を置いている。</p> <p>(外部評価) 玄関には音楽を流し、来客を歓迎する雰囲気を作られている。法人代表者が作ったストーンペインティングが飾られていて、記念に持ち帰るご家族もあるようだ。調査訪問時には、利用者と職員が居間の畳のスペースでおしゃべりしながら、洗濯物をたたんでおられ、利用者が洗濯物のたたみ方を工夫して、職員に教えておられた。利用者は、居間で飼っているウサギに水を準備したり「餌がないよ」と職員に教えてくださる。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) リビングでは、気のあった利用者同士で、ほぼ決まった席での食事や、レクリエーションなど、会話を楽しんだり、思い思いに過ごせている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 今までの思い出の写真、作品などを飾っており、照明やカーテン、エアコンなど、その時の状況にあった空間に対応し、住みやすい空間を作っている。本人、家族と相談し、衣服や布団類など、好みにあったものを使用し、居心地よく過ごせている。</p> <p>(外部評価) ご家族が利用者の若い時からの写真を額に入れ、壁に飾っておられたり、いつでも思い出せるようアルバムを置いている利用者もあった。使い慣れた鏡台を持ち込んでいたり、居室で編み物する方もいる。寝返りをよくする利用者は、畳に寝床を敷いて、夜間は横にもう一枚布団を敷き、自由に寝返りできるようにされている。居室は、普段は職員が掃除しておられるが、時々、利用者も一緒に掃除をされている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 居室では、危険のないよう、自由に動ける空間、整理整頓に注意している。自分で片付け、取り出せるよう、ダンスなど手の届く位置やラベルを貼り、自立できるよう工夫している。</p>	